**フランシスコ教皇メッセージ＠2016年Davos会議**

[**Message of the Holy Father to the Executive President of the World Economic Forum on the occasion of the annual gathering in Davos-Klosters (30 December 2015)**](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/messages/pont-messages/2015/documents/papa-francesco_20151230_messaggio-wef.html)

20160205 和訳rev.1　齋藤旬

To: Klaus Schwab教授　ダボス会議議長

何よりもまず感謝を表します。この1月末、「第四次産業革命をマスターする」を主題にDavosで開催される世界経済フォーラムでお話しする様お招き頂き有り難うございます。この会議が実り多いものになること、即ち、建設的な対話がgovernment, business and civic leadersによって、そしてthe political, financial and cultural sectorsの代表者達によって為され、これらの対話を通じて社会的応答責任と環境的応答責任が途切れることなく奨励されること、このことを心から望みます。

　さて、いわゆる「第四次産業革命」が暁（あかつき）の時を迎え、多数のjobs（仕事、人が関わる仕事）が今後劇的に減少するのは避けられないという感覚が日増しに強まっています。他方現在でも、何億人もの失業者（unemployment）が存在することがILO（国連の国際労働機関）の最近の研究によって明らかです。national and global economies（人々の経済と世界の経済と）がfinancializeされtechnologizeされたために、labourの分野に広範囲に及ぶ変化が生じています。即ち、useful且つdignifiedな雇用機会は減少傾向にあり、これが社会保障の先細りと相まって、様々なcountriesにおいてinequality and povertyの憂慮すべき増大を来（きた）しています。従って極めて明らかに、私達が為すべきは、先進的technologiesの開発を進める一方で、その先進的technologiesを使って、社会全構成員（all）のためのdignified workをcreateし、social rightsを強固に支持し、環境を保護する、こういったことがcapableなnew models of doing business（businessを行う新モデル）をcreateすることです。つまり人類（man）はtechnological developmentを主導すべきなのであって、これに支配されることはあってはならないのです！

　本会議参加の皆さんに今一度お願いします。「困窮者達を忘れないで下さい！」　これは、これからのbusiness worldにおけるleadersである貴方方にとってthe primary challengeです。「特権に一喜一憂するのでなく既にa decent lifeを享受する手段を持っている者達は、自分達よりも貧しい者達がdignified living conditions（尊厳ある生活環境）を得られるよう助けなければなりません。特に彼らが、human, cultural, economic and socialな潜在力を開発できるように助けなければなりません。」([*Address to Civic and Business Leaders and the Diplomatic Corps*, Bangui, 29 November 2015](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/speeches/2015/november/documents/papa-francesco_20151129_repubblica-centrafricana-autorita.html))

私達は決して、繁栄の文化（the culture of prosperity）に腐心してはなりません。それは私達のcapability（尊厳行為能力）を奪い、「貧しい人々の叫びにcompassionを感じることも、他の人々の痛みを感じて泣くことも、それらの人々を助ける必要性を感じることもできなくしてしまいます。あたかも、それは誰か他の人がresponsibilityを負うべきこと、私じゃない、かの如くです。」(*[Evangelii Gaudium](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20131124_evangelii-gaudium.html)*[,](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/apost_exhortations/documents/papa-francesco_esortazione-ap_20131124_evangelii-gaudium.html) 54　拙訳は[ここ](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Column%20hobo-shuukan/2013/20131227%2075%202_1_Evangelii%20Gaudium/20131227%2075%202_1_Evangelii%20Gaudium%20rev2.doc)).

　他の人々の痛みを感じて泣くこと。これは、苦しみを分かち合うことだけを言っているのではありません。それよりもむしろ、この様なinjustice and inequalityの原因が私達自身の行為にあると気付くことを言っているのです。「目を見開きましょう。尊厳を否定された兄弟姉妹が負った幾多の傷の深さ、この世界の惨状に真正面から向き合いましょう。耳も傾けましょう。助けを求める彼らの叫びに私達の心は反応し始めているはずです。このことに早く気付きましょう！　そして祈りましょう。どうか私達の思い、支援の手が彼らに届きます様に。私達が暖かく寄り添っていること、私達の友情と友愛、これらが彼らに届きます様に。彼らの叫びが私達自身の叫びになります様に。そして、私達の偽善と利己心を隠してしばしば猛威を振るう無関心の壁を、彼らとともに力を合わせて引き倒すことが出来ますように！」([*Bull of Indiction of the Extraordinary Jubilee of Mercy, Misericordiae Vultus*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/bulls/documents/papa-francesco_bolla_20150411_misericordiae-vultus.html), 15　慈しみの大聖年の大勅書『慈しみの御顔』、15)

　このことに気付けば、私達はもっとfullyにhumanとなるはずです。なぜなら、兄弟姉妹に向けた応答責任は、私達のcommon humanityの最も重要な部分だからです。これらの困窮者達に自分達の心と精神（minds and hearts）を開放することを恐れてはいけません。心と精神を開放すれば、自分達が持つeconomic and technical talentsを使いこなすfreedomを獲得し、a full life（完全な生命）としてのthe happinessを発見するでしょう。これは決して消費主義によっては実現できません。

時代を画す深遠な変化の時を迎えました。これに直面するworld leadersは、来たるべき「第四次産業革命」、即ちroboticsと科学技術innovationの帰結、これが決してthe human personを破壊しないよう確実に導くchallengeを課されたのです。即ち、the human personをa soulless machineに置き換えてはいけません。また、私達の惑星をa chosen few（一握りの富裕層）が享楽に耽（ふけ）る空しい庭園に変えてもなりません。

見方を変えれば、現在進行中の過程をguide and governできるこの貴重な機会を捉えて、人間の尊厳、寛容、共感、慈しみを基礎においた包摂的社会を構築することができるでしょう。この場合私のお勧めは、“our common home”であるこの惑星の上にどの様に未来を築いていくのかに関して、改めて話し合いを再開することです。そしてこの場合私のお願いは、力を合わせて持続可能で統合的な発展を追求することです。

　しばしば言及してきましたし、またこの場をお借りして繰り返しますが、businessとは、“a noble vocation, directed to producing wealth and improving our world” --- “高貴な召命、即ちこの地上世界を改善し豊かさを生み出すよう方向付けられたもの”です。また、「もしそれが、共通善に仕えるessentialな部分の仕事を創造するならば、とりわけ（especially）、繁栄を実らす源となるのです。」（[*Laudato Si’*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/encyclicals/documents/papa-francesco_20150524_enciclica-laudato-si.html)（齋藤訳は[ここ](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Papers/Laudato%20Si/Chapter%20III%20IV%20V%20wayaku%20rev2.doc)[[1]](#footnote-1)）129段落）　つまり本来businessそれ自体が、社会問題と環境問題の複合危機を克服する助けとなるresponsibilityを基本的に有しています。このresponsibilityが全うされるならば、多くの人々の不安定な生活環境を改善しthe social gap（社会的相互不信）に橋渡しを行うことが出来ます。そしてこの社会的相互不信こそ、equality, justice and solidarityといった社会の基本的価値を侵蝕し、幾つものinjusticesを生み出す元凶なのです。

　以上述べた様な好ましい対話を通じて、この世界経済フォーラムは、「もっと健康的で、もっと人間らしく、もっと社会的で、もっと統合的な」（[*Laudato Si’*](http://w2.vatican.va/content/francesco/en/encyclicals/documents/papa-francesco_20150524_enciclica-laudato-si.html)（齋藤訳は[ここ](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Papers/Laudato%20Si/Chapter%20III%20IV%20V%20wayaku%20rev2.doc)）112段落）progressを達成するための創造活動を、防衛し保護するa platformとなることができるのです。これは、2015年9月25日の国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に明記された貧困撲滅努力の最大化にとっても、また、COP21（気候変動枠組条約第21回締約国会議）で2015年12月12日採択された「パリ協定」に明記されたenvironmental goalsにとっても、the need（必要なこと）でありdue regard（当然の観点）でもあるのです。

　シュワブ議長殿、これから開催されるDavos会議が成功するよう改めて願いつつ、議長、参加者の皆さん、ご家族に神の豊かな祝福があるようにお祈りします。

From the Vatican, 30 December 2015

FRANCISCUS

1. 齋藤補遺：共通善に仕えるとき繁栄を実らすのであって、その逆に、繁栄を実らすとき共通善に仕えている、とは必ずしも言えない。なぜならばこの地上世界においては（in this world）、ヨハネ・パウロ二世が[*Centesimus Annus*](http://w2.vatican.va/content/john-paul-ii/en/encyclicals/documents/hf_jp-ii_enc_01051991_centesimus-annus.html) 50段落（齋藤訳は[ここ](http://www.llc.ip.rcast.u-tokyo.ac.jp/Column%20hobo-shuukan/2014/20140521%20W95%20Centesimus%20Annus%20Chapter%20V%20wayaku%20rev2/20140521%20W95%20Centesimus%20Annus%20Chapter%20V%20wayaku%20rev3.doc)）で言うところのfalse and erroneous values（贋（にせ）や誤りの価値）が残念ながら存在するからだ。 [↑](#footnote-ref-1)